

経過日時	術前1日目 (/)	(術前)	(術後)	手術後1日目 (/)	手術後2日目 (/)	手術後3日目	手術後4～5日目まで (/)	手術後6～8日目まで (/)
達成目標	手術に関して理解できる 不安なく治療を受けることができる		合併症の出現がない 痛みがコントロールできる	消化管の症状・所見がない				退院後の生活に対する不安がない
治療処置薬剤	今飲んでいる薬を看護師に渡してください。 ※特に高血圧・糖尿病・血液をサラサラにするお薬を服用されている方はお知らせください。	術衣に着替えます。 浣腸をします 必要があれば、弾性ストッキングを履きます。	点滴を行います おなかに管をいれます 	主治医の診察があります。 傷口の観察をします。 痛みがある時は、痛み止めの使用ができます				主治医の許可があれば、退院が可能になります 
検査		手術に必要な検査を行います。		採血をします。		採血をします。	術後6日目に採血をします。	
安静度	安静の制限はありません。	状態に合わせて手術室へ移動します。		ベッド上安静です。	歩行できます。 最初の歩行は看護師が付き添います。			
食事	夕食より食べられません。	食事はたべれません。 水分は主治医確認後となります。		食事は食べられません。 水分は主治医の許可があれば摂取できます。			採血の結果をみて昼から食事が始まります	
清潔	おへそをきれいにする処置を行います。			清拭を行います。	おなかの管が外れたらシャワーができます。			
排泄	トイレまで歩行可能です。	手術の前までに排尿・排便を済ませておいてください。 尿の管をいれます。			トイレまで歩行可能です。			
教育指導説明	看護師からの事前説明があります。 術前オリエンテーションを行います。 手術・麻酔の同意書にサインをして、看護師に渡してください。		痛みや吐き気・気分不良があったらすぐにナースコールを押してください。			必要があればリハビリを行います	腸の動きが良くなるように積極的に動いてください。	退院後に感染を起こす可能性がありますので 傷口は清潔に保ってください。 傷口の発赤や発熱、腹痛、食欲低下などの症状がありましたら、次回受診を待たずに受診し
服薬指導	持参されたお薬の作用、副作用について薬剤師が説明を行います		新しく薬が出た場合は、内服方法や作用・副作用について説明します。					
栄養指導			あり ・ なし					
観察	腹部症状・不安の有無の観察を行います。		傷からの出血や性状を観察します。 体温や血圧等を測定します。 痛みや痺れなどを観察していきます。				食事を観察します。	
在宅復帰支援計画	() 病状の安定を図り、安心して生活する為の支援を行います。 () 日常生活動作が維持できるような環境設定の提案や介助方法を家族・療養にかかわるスタッフへ指導します。 ()							

主治医： 令和 年 月 日

師長：

担当看護師： 本人または家族の承諾サイン：

在宅復帰支援担当者： 東2・西2階(黒田) 東3階(中村) 西4階(栗津) 西5階(松山)

*注：入院期間は、現時点で予測されるものである・病名等は現時点で考えられるものであり、今後検査などを進めていくに従って変わりうるものである